

2017 年 4 月 19 日

参加団体各位

公益財団法人日本太鼓財団

第 19 回日本太鼓ジュニアコンクール演奏の講評について

このたび、第 19 回日本太鼓ジュニアコンクールの演奏に関する講評を下記のとおり取りまとめましたのでご通知いたします。

今大会は、全国の 41 支部及び東北と九州の地区コンクール並びにブラジル、台湾における大会に出場した 552 団体、5,506 名により実施されました。その中から選出された合計 37 都道府県・2 地区代表 54 チームに、ブラジル、台湾と特別演奏のアルゼンチン、前年度優勝チームを加えて 58 チーム 844 名が参加して、兵庫県神戸市の神戸国際会館こくさいホールにおいて 2,200 名を超える満員の観客を前に行われました。さらに、今年も大会の様態をインターネットによりライブ配信したことにより日本国内のみならず世界各国においても多くの皆様に視て頂くことができました。

この講評内容は、審査委員会(塩見和子委員長)の総合評価に加えて技術委員会(古屋邦夫委員長)が演奏技術と課題曲における正確さや表現力、自由曲における創造性など、全委員の意見を技術委員会で取りまとめたものです。

各チームがこの講評を参考に、今後も益々精進されることを期待しております。

記

1. 総評

(1) 第 19 回大会は、兵庫県では初めての開催となりました。太鼓界の将来を担うジュニアの皆さんが、日ごろの練習の成果を発揮し、力一杯の演奏を披露していただいたお蔭で一段と高いレベルの演奏で、チーム間の差が少なく優劣をつけ難い大会となりました。大会の成績に関わらず、全国大会に出場したことが優秀な証明であり、各チームにとって大きな財産になることを確信しております。今後とも、結果にこだわらず、礼節を重んじ、他のチームの模範として活躍されますよう期待いたします。

(2) 演奏に関しては、全体的に技術の向上が感じられうれしく思います。ただ、ここ数年指摘されている音楽に関係ないパフォーマンスや、しっかりとした音を出せない笛を入れるなど改善の兆しが感じられなかったのは残念でした。4 分間という短い演奏の中で、長々と笛を使うことは太鼓のコンクールにおいては不利です。また、据え置きの大平太鼓、抱え桶、笛を多用するチームが多かったのも印象的でした。前回大会で成績の良かった演奏を参考にするよりも、チームの個性や地域性を活かすような演奏を期待しております。音量の大小を工夫し、ゆったりとした演奏を心がけると別の世界が見えると思います。最近、太鼓の数量が多くても効果に疑問を感じるチームが目立ちます。太鼓の数量を増やして賑やかにすれば良いわけではありません。演奏上に必要としない無駄な太鼓は逆効果になりますので注意して下さい。

チーム名の紹介後に直ぐに演奏に入らず、無駄と思える所作が多く、進行の妨げになるチームがみられました。今後は、減点の対象となりますので留意して下さい。

課題曲は、途中で速度が変化しますが、その際にリズムが不安定な上、細かい音譜がバラバラに聞こえるチームが多かったのは残念でした。

楽譜上に記載されているテンポや音符を正確に演奏すること、音の強弱やバランスなどを工夫すると良い演奏になると思います。

自由曲では、4分の時間の中で色々な表現をしようとするチームが多く見られましたが、何を表現したいのか理解に苦しむような構成は逆効果になりますので、気をつけて下さい。

伝統的な太鼓や地域性を活かした演奏が増えてきたのは喜ばしい傾向ですが、笛に頼るより太鼓で自然な流れになるように工夫して欲しいと思います。

(3) 衣裳については、太鼓演奏の妨げになるようなチームが少なくなったようです。これからも衣裳で採点が左右されることはありませんので、清潔でジュニアらしい衣裳を心がけて下さい。また審査では、審査員や観客の受けを意識した演奏より、太鼓に向かう真摯な態度を評価することになりますので、留意して下さい。

(4) 大会翌日の特別講習会は、例年になく参加を希望される団体が多く、青山高等学校(三重)、県立奈良朱雀高等学校(奈良)、山城ノ國和太鼓鼓粋(大阪)、別所ともえ太鼓会(兵庫)、そしてブラジルの源流太鼓、アルゼンチンのアカスーソ太鼓が参加されました。国内チームは技術委員長古屋邦夫先生と技術委員の安江信寿先生、海外チームは長谷川義先生から基本を確認しながらの指導を受け、受講生からは大変良かったとの声が多く聞かれました。財団の講習会は、個人を対象としており、チームを対象とした講習会は現在のところジュニアコンクールの時だけです。

チームの指導者にとっても指導方法を学ぶ大変良い機会ですから、今後とも多くの参加を期待します。

(5) 今大会は、13回目となるブラジルと、7回目となる台湾が出場、そしてアルゼンチンが3回目の特別出演として参加しました。台湾チームは、昨年10月に29団体322名が参加して桃園国際空港から近い台湾苗栗縣で行われた第7回台湾太鼓ジュニアコンクールで優勝した「葫蘆墩 Smile 太鼓團」の皆さんが、一昨年に続いて3回目の出場です。今大会では、課題曲に続いて自由曲「流星」で素晴らしい演奏を披露し第4位に輝き、兵庫県知事賞を受賞いたしました。ブラジルチームは、昨年7月にブラジルのサンベルナルド・ド・カンポ市で14団体139名が参加して行われた第13回全ブラジルジュニア太鼓選手権大会において見事に優勝した「源流太鼓」の皆さんです。課題曲に続いて自由曲「源流の音」を見事に披露され第5位に入賞されました。アマゾンの鳥を想起する笛の音色は新鮮でした。また、昨年に続き3回目の出場となるアルゼンチンからは「アカスーソ太鼓」が特別出演され、課題曲に続いて「絆」を熱演されました。海外3チームの皆さんは、同年代のジュニア達のレベルの高い演奏を目の当たりにしてとても良い勉強となり、今回の経験を生かして頑張りたいとの意欲を示していました。ブラジルとアルゼンチンチームは大会終了後、各地のブラジル人学校やポートルース場を回り演奏を披露いたしました。

なお、東北6県による「東北太鼓ジュニアコンクール」と九州7県により行われている「全九州・日本太鼓ジュニアコンクール」から初めてそれぞれ1チームが全国大会出場を果たすなど地区単位での大会が盛んになり、そのためにレベルが向上したことは嬉しく感じます。

また、台湾大会と全九州大会での優秀チームが相互の大会に特別出演したことも交流事業としては有意義なことと思います。

2. 審査委員並びに技術委員について(五十音順・敬称略)

(1) 審査委員

審査委員長 塩見 和子 (財団理事長)
 審査委員 岡田 知之 (洗足学園音楽大学名誉教授)
 田中久仁明 (一般社団法人日本マーチングバンド協会理事長)
 長谷川 義 (財団副会長)
 藤原 道山 (尺八演奏家)
 古屋 邦夫 (財団技術委員会委員長)
 渡辺 貞夫 (音楽家・サクソ奏者)

(2) 技術委員

鈴木 孝喜、高野 右吉、田中 俊己、西川恵美子、
 安江 信寿、山内 強嗣、渡辺 洋一

3. 演奏内容について

参考のため出場全チームの講評をお送りします。
 別紙の講評コメントを参照して下さい。

4. 審査結果について

優 勝・内閣総理大臣賞	和太鼓たぎり (福岡県)
準優勝・総務大臣賞	輪島和太鼓虎之介 (石川県)
第3位・文部科学大臣賞	橘太鼓響座「一」 (宮崎県)
第4位・兵庫県知事賞	胡蘆墩 Smile 太鼓團 (台湾)
第5位	源流太鼓 (ブラジル)
特別賞	
神戸市長賞	熊本市立必由館高等学校和太鼓部 (熊本県)
神戸市教育委員会教育長賞	火の神乙女太鼓爽 (鹿児島県)
兵庫県芸術文化協会賞	日向の国「響」 (宮崎県)
NHK神戸放送局長賞	諫早天満太鼓 (長崎県)
サンテレビ賞	大和太鼓保存会鼓天童子 (佐賀県)
神戸新聞社賞	太鼓研修センター「響」 (宮崎県)
日の出通商賞	三代目源流少年隊 (大分県)
株式会社浅野太鼓楽器店賞	和太鼓集団夢幻の会 (香川県)
株式会社宮本卯之助商店賞	児島瑜伽太鼓 (岡山県)
諏訪響太鼓店賞特別賞	Z E N K A I 太鼓「和」 (大分県)
ブラジル太鼓協会賞	諫早天満太鼓 (長崎県)
台湾太鼓協会賞	和太鼓集団夢幻の会 (香川県)
アルゼンチン太鼓協会賞	太鼓研修センター「響」 (宮崎県)
国際友好賞	源流太鼓 (ブラジル)
国際友好賞	胡蘆墩 Smile 太鼓團 (台湾)
国際友好賞	アカスーソ太鼓 (アルゼンチン)